



Top Message



株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2022年3月31日をもって、第74期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況につきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長

英 裕治

Hanabusa Yuji

当期業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されますが、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要があります。

このような状況の中で当社グループは、音響機器事業のうちハイエンドオーディオ機器事業は、次世代アンプの要素技術の確立と新規カテゴリーへの挑戦でラインナップを拡充し、海外市場を伸ばす事で堅実な成長路線を目指してまいりました。プレミアムオーディオ機器事業は、当社デジタルおよびアナログ技術の粋を結集したReferenceシリーズを軸に、すべてのカテゴリーにおいて新製品が競合に比べ常に個性的な価値を持つ事で、収益向上とブランド・イメージの回復を引き続き目指してまいりました。音楽制作・業務用オーディオ機器事業では、世界各国で連携したデジタルマーケティングの強化および多数の戦略的新製品の投入により製品ラインナップを更に拡充いたしました。情報機器事業においては、IoTやAIなどの市場の先端技術への取り組みを行う事により、新しい市場への開拓を進めてまいりました。

当連結累計期間におきましては、新製品が好評を博したことで売上収益は増加し、前連結会計年度の営業利益は1億2千7百万円の一過性の個別開示項目の利益（年金制度変更等）の発生がありましたが、当連結会計年度は本業のみで前期比増益となる営業利益を計上しました。

この結果、当社グループの連結会計年度の売上収益は160億4百万円（前期比9.7%増）、営業利益は6億5千4百万円（前期比28.8%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益3億9千2百万円（前期比30.1%増）となりました。

利益配分に関しましては、中長期的な企業価値向上のために人材、技術開発、ブランド価値向上等の成長投資に資金を投下し、機動的な経営を可能にするための内部留保の適正な水準を維持しつつ、株主の皆様への還元を最大化することを株主還元の基本方針といたしました。当期の業績は概ね計画通り進捗したものの、中長期的な企業価値の向上が株主のみなさまに対する最大の還元につながるかと判断した結果、経営基盤強化のため、内部留保の充実を図り、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただきます。

次期の業績見通しについて

各国においてワクチン接種が進んだ事で前年度に比べ受注状況の改善は見られたものの、変異を続ける新型コロナウイルスは中国・北米両岸の混乱に伴う輸送期間の長期化と輸送コストの高騰をもたらしました。また、半導体を中心とした電子部品の調達難と価格高騰も収束を見せない中、第4四半期に入り急激な為替変動やロシアによるウクライナ侵攻が発生、事業環境の不透明さは一層増しました。

このような環境のもと、当社グループは、ターンアラウンドを達成した当連結会計年度からの持続的な

再成長を目指し、2025年3月期を最終年度とする中期経営計画「B-7030計画」を策定しました。

「B-7030計画」の初年度となる次期におきましても、原材料価格や輸送コストの高止まりと更なる高騰リスクは年度を通じて避けられないと想定しております。その対応として、当社が比較優位性を持つ製品を中心にグローバルに価格改定を実施することで、次期以降の業績の安定化と2025年3月期の中期経営目標達成への戦略投資の原資確保および実行を確実なものとしします。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

▼新中期経営計画については、こちらをご覧ください。

中期経営計画
「B-7030計画」

https://www.teac.co.jp/downloads/corporate/2022/20220513_ekrzer8a.pdf



連結業績ハイライト（国際会計基準）

	第72期 2020年3月期	第73期 2021年3月期	第74期 2022年3月期
売上収益 (百万円)	14,745	14,589	16,004
営業利益 (百万円)	286	508	654
税引前当期利益 (百万円)	69	342	481
親会社の所有者に帰属する当期利益 (百万円)	27	301	392
基本的1株当たり当期利益 (円)	0.94	10.45	13.60
資産合計 (百万円)	9,540	9,651	10,081
資本合計 (百万円)	1,417	1,844	2,468

音響機器事業

68.6%

売上収益 10,985百万円

(前期比9.1%増)

セグメント営業利益 1,283百万円

(前期比4.6%増)

ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド) は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う度重なる緊急事態宣言の影響や半導体不足、サプライチェーンの混乱などの影響を受けましたが、新しく上市したネットワーク関連製品が予想以上の売上で推移しました。またアジア市場をはじめ北米、欧州の海外市場全般で売上が伸び全体で増収を達成いたしました。

プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド) も、新たに上市したReferenceシリーズのネットワーク関連製品が国内外で順調に推移しました。また欧州市場を中心にターンテーブルカテゴリー製品の需要増が継続し全体としては増収を達成いたしました。

音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド) は、BtoC事業において、新生活様式の浸透により成長を続けるクリエイター市場向けに今年度投入した新製品三機種が好調な受注となり、既存品共々堅調な販売となりましたが、港湾混雑等や部品調達難により欧米市場の高い需要を満たせない状況が続いています。BtoB事業においては、世界各国で市況の回復が見られることに加え、部品調達難による設計変更を実施した製品群の供給再開などもあって業務用機器の販売が好調に推移しました。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体としては増収となりました。

- ハイエンドオーディオ機器
- プレミアムオーディオ機器
- 音楽制作・業務用オーディオ機器

オリジナルブランド

ESOTERIC

TEAC

TASCAM

情報機器事業

27.0%

売上収益 4,317百万円

(前期比8.5%増)

セグメント営業利益 254百万円

(前期比106.2%増)

機内エンターテインメント機器は、第4四半期に計画していた海外顧客向け出荷において一部部品の調達に間に合わず翌期に延期となったことから、減収となりました。

計測機器関連は、データレコーダーは第4四半期で期待した市場回復が見られず低調に推移しました。センサー関連は半導体製造装置市場向け出荷が好調を維持、シリコンウエハー製造機メーカーからプローブメーカーまで業界全般に渡り大きく出荷を伸ばし、結果として計測機器全体では増収となりました。

医用画像記録再生機器は、国内消化器内視鏡向けレコーダーの販売は好調に推移、手術画像用レコーダーも国内・海外共に好調を維持しました。特に海外市場では米国向け出荷が大きく伸長、インド、南米等の医療新興国においても安定した出荷を維持できました。また、第4四半期にはフラッグシップモデルとなる新製品の4Kレコーダーの出荷も開始しました。結果として医用画像記録再生機器全体では、増収となりました。

ソリューションビジネスは、大手顧客向けITサポートが計画を大きく下回り減収となりましたが、大型の受託開発案件の獲得、販管費の削減により増益となりました。一部海外販売子会社で継続している産業用光ディスクドライブは、医療機器メーカー、防衛等の特定顧客からの需要増により増収となりました。

- 機内エンターテインメント機器
- 計測機器 トランスデューサー
データレコーダー
- 医用画像記録再生機器
- ソリューションビジネス
- 産業用光ドライブ

オリジナルブランド

TEAC

その他事業 4.4%

売上収益 703百万円

(前期比29.2%増)

セグメント営業利益 86百万円

(前期比290.9%増)

- EMS事業

要約連結財政状態計算書

(単位:百万円)

	当期 2022年 3月31日現在	前期 2021年 3月31日現在
■ 資産		
流動資産	8,210	7,475
現金及び現金同等物	1,304	1,869
営業債権及び その他の債権	3,154	2,844
棚卸資産	3,400	2,454
その他の流動資産	352	307
非流動資産	1,870	2,177
有形固定資産	1,513	1,810
無形資産	147	125
その他の投資	—	3
繰延税金資産	15	22
その他の金融資産	135	148
その他の非流動資産	60	68
資産合計	10,081	9,651

Point 1 連結財政状態計算書

＜資産合計＞

現金及び現金同等物の減少565百万円、棚卸資産の増加945百万円、営業債権及びその他の債権の増加310百万円、有形固定の減少297百万円となり、前期末と比較し、429百万円増加となりました。

＜負債合計＞

リース負債の減少319百万円、長期未払金の減少229百万円、その他の流動負債の増加137百万円となり、前期末と比較し、194百万円減少となりました。

Point 2 連結損益計算書

＜売上収益＞

新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあり、新製品が好評を博したことで、売上収益は前期末に比べ9.7%増加しました。

＜営業利益＞

前期は、一過性の個別開示項目の利益（他年金制度変更等）の発生がありましたが、当期は本業のみでの営業利益計上となり、前期末に比べ28.8%増加となりました。

Point 3 連結キャッシュ・フロー計算書

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

当期における主な内訳は、プラス要因として、減価償却費及び償却費の増加487百万円、マイナス要因として、営業債権及びその他の債権の増加268百万円、棚卸資産の増加758百万円でありました。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

当期における主な内訳は、プラス要因として社債の発行による収入471百万円、マイナス要因として短期借入金の純増減額276百万円、リース債務の返済による支出363百万円でありました。

要約連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2021年4月1日～ 2022年3月31日	前期 2020年4月1日～ 2021年3月31日
売上収益	16,004	14,589
売上原価	9,232	8,331
売上総利益	6,773	6,258
販売費及び一般管理費	6,127	5,890
その他の損益	8	14
個別開示項目前営業利益	654	381
個別開示項目	—	127
営業利益	654	508
金融収益	3	7
金融費用	176	173
税引前当期利益	481	342
法人所得税費用	90	56
当期利益	392	286
当期利益の帰属先		
親会社の所有者持分	392	301
非支配持分	—	△ 15

要約連結持分変動計算書（2021年4月1日～2022年3月31日）

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	利益剰余金 (IFRS移行時の 累積換算差額)	その他の 資本の 構成要素	合計		
当期首残高	3,500	16	△ 121	1,586	△ 3,430	295	1,844	—	1,844
当期包括利益									
当期利益				392			392		392
その他の包括利益						313	313		313
当期包括利益合計	—	—	—	392	—	313	705	—	705
所有者との取引等									
自己株式の取得			△ 2				△ 2		△ 2
自己株式の処分		△ 4					△ 4		△ 4
その他の資本の 構成要素から 利益剰余金への振替				△ 169		93	△ 76		△ 76
連結子会社に 対する所有者 持分の変動							—		—
所有者との取引等計	—	△ 4	△ 2	△ 169	—	93	△ 82	—	△ 82
当期末残高	3,500	11	△ 123	1,809	△ 3,430	701	2,468	—	2,468

※連結財務諸表の記載金額は百万円未満を四捨五入して、表示しております。

要約貸借対照表

(単位:百万円)

	当期 2022年 3月31日現在
■ 資産の部	
流動資産	5,154
現金及び預金	845
受取手形	370
売掛金	1,456
商品	788
原材料	610
前払費用	181
関係会社短期貸付金	312
未収入金	403
その他	206
貸倒引当金	△ 17
固定資産	6,406
有形固定資産	1,425
無形固定資産	51
投資その他の資産	4,906
資産合計	11,560

(単位:百万円)

	当期 2022年 3月31日現在
■負債の部	
流動負債	5,929
支払手形	320
買掛金	347
短期借入金	2,210
関係会社短期借入金	1,846
1年内返済予定の長期借入金	55
1年内償還予定の社債	100
リース債務	9
未払金	402
未払費用	186
未払法人税等	53
前受金	47
預り金	26
賞与引当金	185
製品保証引当金	39
未払消費税等	55
その他	49
固定負債	1,456
負債合計	7,384
■純資産の部	
株主資本	4,175
資本金	3,500
資本剰余金	54
利益剰余金	743
自己株式	△ 121
純資産合計	4,175
負債及び純資産合計	11,560

要約損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2021年4月1日～ 2022年3月31日
売上高	10,844
売上原価	6,616
返品調整引当金繰入額	5
売上総利益	4,222
販売費及び一般管理費	4,036
営業利益	186
営業外収益	399
営業外費用	252
経常利益	333
特別損失	19
税引前当期純利益	314
法人税、住民税及び事業税	△ 30
当期純利益	345

要約株主資本等変動計算書（2021年4月1日～2022年3月31日）

(単位:百万円)

	株主資本					純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	
		その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
当期首残高	3,500	54	398	△ 121	3,831	3,831
当期変動額						
当期純利益			345		345	345
自己株式の取得				△ 0	△ 0	△ 0
当期変動額合計	—	—	345	△ 0	345	345
当期末残高	3,500	54	743	△ 121	4,175	4,175

※単体財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて、表示しております。



USB DAC/ヘッドホンアンプ

UD-505-X

USB DAC/ネットワークプレーヤー

NT-505-X**TEAC**

D/A回路を一新したセパレートコンポ『UD-505-X』および『NT-505-X』を、2021年9月より販売を開始いたしました。

両製品はA4サイズのコンパクトな筐体に、長年培われてきたティアックの最新のデジタルオーディオ技術とハイエンドオーディオの設計思想を凝縮させた、Referenceシリーズの中核をなす製品です。

ステレオ信号をよりピュアな状態で処理するデュアルモノラル構成とし、D/Aコンバーター部はESS Technology社製 ES9038 Q2Mを左右に1基ずつ搭載。ESS独自技術の32-bit HyperStream® II DAC architectureとTime Domain Jitter Eliminatorにより、優れたダイナミックレンジとリニアリティの向上を実現し、動特性に優れたより正確でクリアなオーディオ再生が可能になりました。

各々のDACをモノラルモードで使用するにより高S/N値を獲得し、DSD 22.5MHzやPCM 768kHz/32bitのネイティブ再生(USB DACとして使用時)も可能としたハイスペック機で、その音質の高さに各メディアや評論家の皆様からも高い評価を得ております。

**ESOTERIC**

モノブロック・パワーアンプ

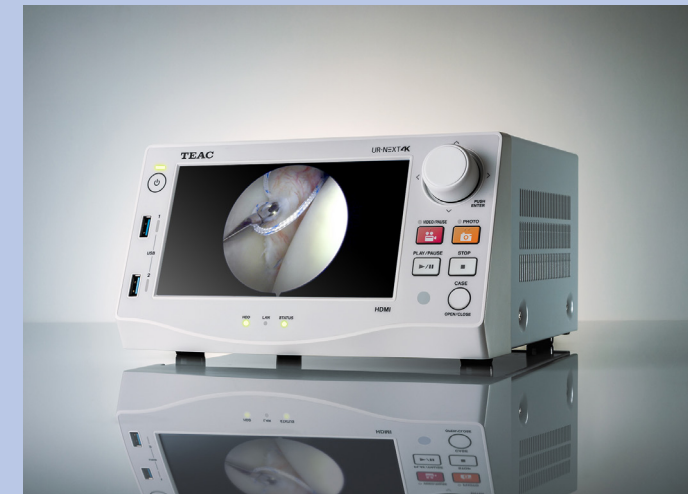
Grandioso M1X

Grandiosoラインの新しいモノブロックパワーアンプ『Grandioso M1X』を2022年3月より販売を開始いたしました。

『Grandioso M1X』はエソテリックのフラッグシップGrandiosoシリーズの中でもXエディションの名を冠する製品にふさわしく、革新的な技術を惜みなく投入したモノブロック・パワーアンプで、その革新性は総部品数1,554点のうち1,018点が新規採用。

そして電気回路の90%が従来のオリジナルモデル『Grandioso M1』から完全に刷新し、パワーアンプの新たなマイルストーンとなり得る製品です。

演奏が始まると、オーディオの存在は消失し、リスニング体験における最もスリリングな瞬間を迎えます。音楽の全てを解き放つ躍動、そして雄大なスケール。完全に刷新したドライブステージと電源部をはじめ、桁違いの物量を投入したことで、M1Xのシグネチャーサウンドは、更なる風格と生命を音楽に与えます。

**TEAC**

メディカルビデオレコーダー

UR-NEXT 4K

『UR-NEXT 4K』は、内視鏡や手術用顕微鏡など医療現場で使用されている4Kカメラの映像記録に対応したティアックでは初となる4Kメディカルビデオレコーダーです。

最大4096×2160の高解像度映像記録に加え3D映像や2チャンネル映像同時記録機能等を搭載した、ティアックビデオ技術の集大成となるレコーダーです。フロントディスプレイには7インチの大型LCDタッチパネルを搭載、2つの映像ソースを同時に表示できるなど手術映像をより確認しやすくなりました。

タッチパネルの操作性も向上し、画面上のグラフィックインターフェイスから、直感的な操作で情報入力や各種設定が可能になったうえ、新たに採用したジョグダイヤルで、術前や術中のよりスピーディーな操作性を実現しました。

また、4K、3Dといった容量の大きな映像データを記録するため、2TBの内蔵ストレージを搭載、医療現場での高解像度映像記録へのニーズをサポートします。さらに外付けのUSBハードディスクやDVD/BDドライブにも対応し、幅広い記録メディアへの手術映像記録を可能にしました。

これからも、培った技術をさらに磨き上げることで、医療現場に新しい利便性を提供していきます。



タッチパネルによる直感的な操作と32bit float録音対応。
次世代の8トラックハンドヘルドレコーダー
『Portacapture X8』を新発売

TASCAM.

2008年の第一号機発売以来、TASCAMのハンドヘルドレコーダー『DRシリーズ』は世界中のクリエイターに愛用されてきました。昨今のDX化に伴い、作品発表の場をオンラインに求めるクリエイターの急増により、あらゆる分野で音をデジタル化する需要が拡大しています。そして、作品のメッセージを確実に伝える上で重要な要素となる音の品質は、クリエイターから多大な関心を集めています。



その多様化する音声収録市場において、目的の音を確実に高音質で収録したいというニーズに応えるべく開発された『Portacapture X8』は、当社が長年培った技術と経験により進化した高音質性能、使いやすさを追求した3.5インチのカラータッチパネルと直感的な操作ができるアプリランチャーシステムを搭載した、32bit float録音対応の次世代8トラックハンドヘルドレコーダーです。



企画賞

キヤノン、富士フィルム、ニコン、各社との協業による
プロ品質での動画音声収録を実現するミラーレスカメラ対応
XLRマイクアダプター『CA-XLR2d』を発売

TASCAM.

『CA-XLR2d』は、キヤノン株式会社、富士フィルム株式会社、株式会社ニコン、それぞれとのコラボレーションにより、業界をリードするカメラメーカー各社のノウハウと音響機器の専門ブランドであるTASCAMによって培われた当社の音声収録技術を結集した共同企画開発製品です。



成長を続ける動画配信市場において、音声の品質は視聴者のエンゲージメントを左右する大きな要因のひとつとして広く認知されており、映像の高画質化と共に音声の高音質化を追求する動画クリエイターがプロ・アマ問わず増加しています。

『CA-XLR2d』は、手軽に音質の劣化なくプロ用マイクを利用でき、音声はカメラの動画ファイルに直接記録されるので従来に比べ編集作業の効率大幅アップを実現します。プロはもちろん、動画コンテンツの音声品質差別化を目指すアマチュアまで、幅広い層の動画クリエイターのニーズに応える一台です。



カメラメーカーとのコラボレーションにより開発された本製品は「デジタルカメラグランプリ2022」で企画賞を受賞いたしました。

会社の概要

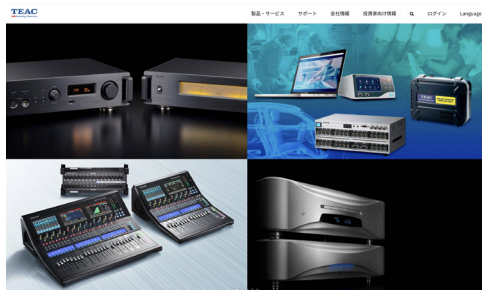
商号 ティアック株式会社
(TEAC CORPORATION)
本社 〒206-8530
東京都多摩市落合一丁目47番地
設立 1953年8月26日
資本金 35億円
事業年度 4月1日～翌年3月31日
代表者 代表取締役社長 英 裕治
従業員数 単体 241名 連結 591名

● 国内拠点

ティアック株式会社
本社 [東京都]
EMCセンター [埼玉県]
大阪営業所 [大阪府]
名古屋営業所 [愛知県]
エソテリック株式会社 [東京都]
ティアック マニュファクチャリング ソリューションズ
株式会社 [東京都]
ティアックカスタマーソリューションズ株式会社 [埼玉県]
ティアックシステムソリューションズ株式会社 [東京都]

● 海外拠点

TEAC AMERICA, INC. [米国]
TEAC EUROPE GmbH [ドイツ]
TEAC UK LTD. [英国]
TEAC SALES & TRADING (ShenZhen) CO., LTD.
[中国]
TEAC AUDIO (CHINA) CO., LTD. [香港]
DONGGUAN TEAC ELECTRONICS CO., LTD. [中国]



役員 (2022年6月17日現在)

代表取締役社長 英 裕治
取締役 野村 佳秀
取締役(監査等委員) 林 健二
取締役(監査等委員) 原 琢己
取締役(監査等委員) 坂口 洋二

株式の状況

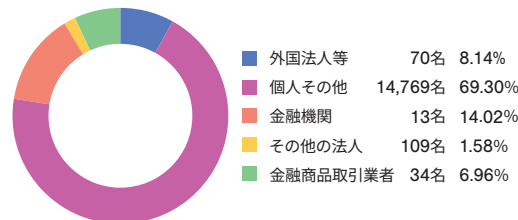
発行可能株式総数 … 40,000,000株
発行済株式の総数 … 28,807,568株
(自己株式124,145株を除く)
株主数 ……………… 14,995名

大株主 (上位10名)

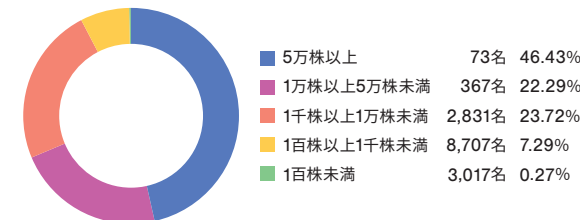
株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	2,861	9.93
山下 良久	740	2.57
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	599	2.08
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	555	1.92
楽天証券株式会社	551	1.91
日本証券金融株式会社	442	1.53
安藤 収	400	1.39
株式会社SBI証券	350	1.22
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	278	0.96
亀井 佐和子	223	0.77

※ 持株数は表示単位未満を、出資比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。
※ 持株比率は、自己株式(124,145株)を控除して計算しております。

株式所有者別状況



株式所有数別状況



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日 3月31日
単元株式数 100株
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日網町1-1
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先) 〒137-0801 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <https://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku>
(ただし、やむを得ない事由により、電子公告によること
ができない場合は、日本経済新聞に公告します。)

【株式事務に関するご案内】

1. 各種お手続きのお問合せ窓口について
株主様の住所変更、買取請求その他各種お
手続きにつきましては、原則、口座を開設
されている口座管理機関(証券会社等)で
承ることとなっております。口座を開設さ
れている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)では
お取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する
各種お手続きについて
特別口座に記録された株式に関する各種お
手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行
が口座管理機関となっておりますので、左
記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信
託銀行)にお問合せください。なお、三菱
UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎい
たします。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(100株に満たない株式)の買取請求のご案内

単元未満株式(100株に満たない株式)については、「単元未満株式の買取請求」により、当社に売却をしていただくことができます。
当社は、単元未満株式の買取請求に係る当社手数料を無料(注)としておりますので、本制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。
(注) 無料となる手数料は当社に係る手数料です。証券会社等において取次手数料等がかかる場合もあります。

- 証券会社等の口座でご所有の株主様
お取引のある証券会社等にお問合せください。
- 特別口座でご所有の株主様
(証券会社等にお取引口座がない株主様)
特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(TEL 0120-232-711<通話料無料>)にお問合せください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地
TEL 042-356-9100 (代表)

ホームページアドレス <https://www.teac.co.jp/jp/>